

# 園長だより NO72

寒さも一段と厳しくなりました。年の瀬は何かと気忙しくなりがちです。子ども達との生活においては大人の心のゆとりが大きく影響（反映）してしまうもの、多忙で走り回る事のないように心がけていきたいものです。

## 小学校の教科担任制の拡大

つい先日のニュースで小学校の教科担任制の拡大のため今後、政府は教員の加配定数を増やすことを決めたという。教員の配置は、学級や児童生徒の数に応じて決まる「基礎定数」といじめ対策など特定の目的で追加配置する「加配定数」があります。児童の学習の向上、習熟度 up, 教員の負担削減など現場で抱える課題解決のために教員の増員を図るものと思っています。又小学校の高学年での教科担当制の拡大には高学年からの授業内容が難しなる教科の理解度を高めることと教員負担削減を図る狙いがあるとされています。

私は教員数を増やすことに加えてできることから1クラスの児童数を減らしていただきたいと思っています。 ※難しいことは重々承知していますが・・・

今、保育園の5歳児、来年就学の子ども達は18名います。伸び伸びと、健やかに成長している子ども達、現在の環境は子ども達にとって過ごしやすく、遊びに没頭でき、保育士も子ども達と向かい合い、応答的に対応できるものになっています。1年生になると学級編成は35人/1クラスとなる。90名規模の保育園では5歳児クラス

の児童数は20名前後がほとんどであり就学してからの環境の変化に戸惑う子ども達も出ていとも言われている。

春に巣立っていく子ども達が新たな環境下でもたくましく生活できるように卒園までの数カ月を充実したものなるよう考えていかなくてはなりません。



## 主体的に学びに向かう姿勢を養う

保育園では子どもの興味、関心に応じて遊びや活動を支援する個別援助を大切にしていますが小学校にあがると教科(教科書)による一斉の指導が始まります。※入学したての頃は学校生活に慣れていくための内容で進んでいきます。

一斉の教育が始まって子ども達の育ちの面から考えると対応する力は、就学前に養われていると思っています。小さい(幼児期)の子どもは自己中心性が高いと言われています。自分の興味があることには夢中になり没頭し遊び込んだり、集中して話を聞いたり、思いを伝え合ったりします。しかし興味がない事には集中できなかつたり、目を向けることもなかつたり、こんな光景は日常、よくみかけることと思います。でも5歳児頃になると自分をコントロールできるようになっていきます。個人差はありますが自分の気持ちや行動を自分で徐々にコントロールできるようになり、友達(他者)の気持ちに気づいたり、察したりする力も養われていきます。

今の5歳児(めろん組)は、まさにこの時期の子ども達と言えます。

仲間と共に生活し行動を共にする、自分たちの

「やりたいな やってみたいな」を子ども達なりに試行錯誤して知恵をしぼり取り組んでいる生活を送ってきました。

一人、一人が楽しみ、時には仲間と共に課題(めあて)に取り組んできた生活が小学校での一斉指導中心の教育にも対応できるようになっていくと考えています。

卒園まで数カ月、たくさん遊び、やりたいな やってみたいなと思うことはできるだけ実現してあげたいと思っています。

## 体験を通じての学びから頭を働かせての思考へ

乳幼児期は具体的、直接的な体験を通じて学ぶ場が多いのですが、言葉を通じて抽象的な概念も5歳児は学びから得ることが増えてきます。

先に行われた劇の会の取り組みも子ども達で考え、思考して言葉で対話し演じていきながら取り組んできました。物語の1場面もそれぞれの子どもで感じ方が違います。その違いを言葉で表現し他者にわかってもらい劇を作り上げてきました。

仲間の中で育まれてきた力は学校教育下でも発揮できるとしています。

小学校生活を控え、なにかと不安になることもあり、まだ見えぬ生活をより楽しめるよう力を蓄え、いずれくるその時にしっかりアプローチできるように日々、自



分、自分たちで考え、行動できる生活を作っていく事が大切です。

## 園内研修のひとつ

保育の質の向上や職員間のより良い関係を作る事、子ども達の生活をより確かなものにするために定期的に園内での研修を行っています。今年の研修のテーマは「子どもの理解・丁寧な保育2021」です。オリンピックのような大げさなテーマですが、保育者であれば当たり前の課題です。

子どもを理解する、表面で見える物から言葉に表せない内面の読み取りなど子ども達に寄り添い、子どもを知ろう、わかろうとする意識をしつかりと定着させ保育にあたらなくてはなりません。

研修では丁寧な保育に関連する課題を月毎に決めて実践を基に討議しています。

先週行った研修会では趣向を変えて討議に加え「味噌汁づくり」をしました。

「え、なんで味噌汁？」と思う方もいるでしょう、本物をつくる体験、だしにこだわり昔ながらの味の体験「こんぶ、鰹節、いりこ」を使いグループごとに調理しました。それぞれの特性をしつかりと理解するそんな営みは保育にも通じることと思っています。

保育者の学びの場も試行錯誤を繰り返しながらも保育に反映していけるように今後も取り組んでいきます。 (園長 廣部信隆)

